

米寿を機に最終の会

昭和29年卒同期会

初めあれば終わりありという如く、半世紀以上途切れることなく続けてきたわが80期会も、米寿を迎えた本年をもってその活動を納めることにし、去る5月24日、ホテルメトロポリタン秋田を会場に23名が参加し、「最終の会」を開催した。

最初に、今まで判明している253名の物故者の冥福を祈り黙とう。次に、草薨稲太郎会長が「高校の3年間とその同期と語り合えた80期会は自分の人生のベースであった」と挨拶。開宴に移り、その合間に篠原郁男君、山田珠子さん、塚本隆久君、有明秀太郎君からスピーチがあった。その中には駅前校舎最初の共学女子生徒として過ごした思い出、3年時に創立80周年を迎え、その夏に硬式野球部が戦後初、16年ぶりの甲子園出場を果たしたこと、校名が秋田南高校から秋田高校に改称された最初の卒業学年であることなど、校史の節目に巡り合えたことなどが語られた。終わりに校歌を5番まで無量の思いを込めて歌い、名残りを惜しんで会を閉じた。

これまで会のために協力してくれた同期諸氏に深く感謝するとともに、母校の今後ますますの発展を祈念いたします。

(森谷 裕二 記)



4年ぶり例会にぎやかに集う

昭和33年卒同期会

8月31日(木)、ホテルメトロポリタン秋田で、厳しい状況の中22名(県外から2名)が4年ぶりに集い、例会を開催。工藤雄一幹事の司会で進行、ご逝去会員への黙とうの後、諸報告へ。①6月に28年目で解散した「秋高三三会ゴルフクラブ」の代表佐々木信夫君への感謝状と記念品の贈呈。②例会の開催を初めて昼12時から開催できたこと。③昼食に秋田県で昨年発売されたお米のNo.1サキホコレを提供、高級で日頃食する機会が少ないサキホコレの白飯とたきこみごはんを皆でじっくり食すことができたこと。また、今回の出席記念品としてサキホコレをお持ち帰りいただいた。④「長く続けてきた秋高三三会の全国的な活動につき、明年度、皆満85歳の節目を迎える機会を以て終了し、千秋楽を迎えたい」と幹事会より提案。概ね理解を深めていただいたものと感じている。協坂良子幹事の力強い宣言で閉会。再会を約して、明るいうちに帰路についた。

(佐藤 光雄 記)



つどい
TSUDOI



7月豪雨被害を気遣いつつ

昭和42年卒同期会

それぞれ道は違えど、波乱に満ちた昭和、平成の同じ時代を疾走してきた百戦錬磨の同志たち。そのつながりは理屈抜きに直線的で強固である。今年の中二会はたまたま母校創立150周年記念行事と連続する9月2日の開催となった。会場の秋田市・協働大町ビルに集まったのは県外から駆け付けた15人を含む60人。そのうち12人は前夜の祝賀会に続く2日連チャンのつわものである。

中二会は物故者への黙とう、校歌斉唱に続いて懇親会へ。7月の大雨で店舗が壊滅的被害を受けた挽野泰次君の再起を誓う発声で乾杯した。円卓の座席が平穩だったのもつかの間、会場内はたちまち酒を酌み交わし旧交を温める同志が入り乱れてカオス状態に。秋田市中心部が広範囲で水に漬かった7月豪雨のことや互いの近況など話題が尽きないなか、神戸市から駆け付けた岩川徹君が近況を報告、最後に校友会歌を大合唱して散会した。

(石井 仁 記)



軟式野球全国出場に寄付

昭和54年卒同期会

8月14日午後6時から、27名の参加で「昭和54年卒業生同期会」が秋田キャッスルホテルで行われた。2017年から「同期会を毎年しよう」ということで、今年も開催した。

当時の金主将と藤盛副主将の呼びかけに応じ、参加者が軟式野球部の全国大会出場を祝って寄付をし、後日、柘植校長と監督・部長に手渡した。

一人一人が近況を報告し、来年また元気に会うことを誓い散会した。

(高橋 信一 記)

